

取扱いの趣旨

炎症のある下顎大臼歯部に対する浸潤麻酔は比較的奏効しにくいため、当該部位の「歯槽膿瘍（A A）」に対して口腔内消炎手術を行う場合には、下顎孔への伝達麻酔によって良好な麻酔効果が期待できることから、この場合の伝達麻酔の算定は原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【麻酔】

《平成29年2月27日》

49 伝達麻酔

○ 取扱い

原則として、下顎大臼歯部の「歯槽膿瘍（A A）」病名に対する口腔内消炎手術を行う際の伝達麻酔の算定を認める。

○ 取扱いを定めた理由

炎症のある下顎大臼歯部に対する浸潤麻酔は比較的奏効しにくいため、当該部位の「歯槽膿瘍（A A）」病名に対して口腔内消炎手術を行う場合には、下顎孔への伝達麻酔によって良好な麻酔効果が期待できる。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

伝達麻酔を算定しているレセプト1万件当たり、条件（下顎大臼歯の歯槽膿瘍（A A）に対して口腔内消炎手術時に伝達麻酔を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、伝達麻酔が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

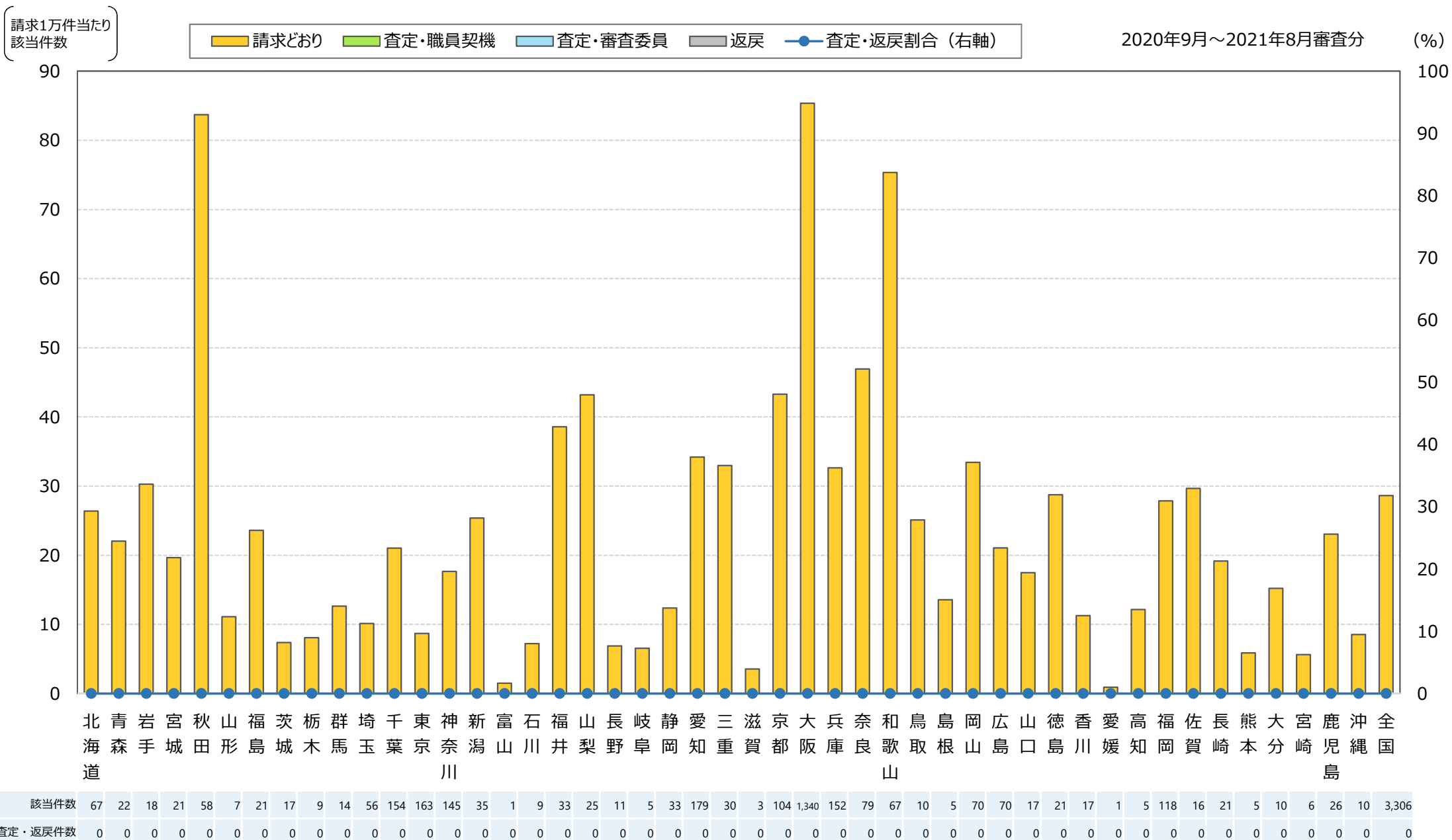
審査結果の概要

➤ 該当レセプトはすべて取扱いに基づく審査が行われている。

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	—	
査定・職員契機	—	
査定・審査委員	—	
返戻	—	
該当件数（全国）	下顎大臼歯の歯槽膿瘍（A A）に対して口腔内消炎手術時に伝達麻酔を算定	3,306件
取扱いに基づく審査	請求どおり	3,306件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	0件

事例49 下顎大臼歯部の「歯槽膿瘍（A A）」に対する口腔内消炎手術時の伝達麻酔の取扱い

【認める事例】



【該当件数】 下顎大臼歯の歯槽膿瘍（A A）に対して口腔内消炎手術時に伝達麻酔を算定しているレセプト件数